



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2018年11・12月
第325号

病院だより第325号 (2018年11・12月号)

発行者	昭和大学藤が丘病院
	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者	藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者	広報委員長 原田 浩史
〒227-8501	横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel	045-971-1151

膵癌の早期発見に向けて

昭和大学藤が丘病院消化器内科 長濱 正亞

藤が丘病院消化器内科は2018年現在、18名のスタッフと4名の専攻医で診療を行っております。



特に内視鏡診療に注力しておりますが、難治癌の克服も当科の目標です。今回は消化器難治癌の1つである膵癌の早期診断についてお話しします。

膵癌は消化器内科で診療する疾患の中でも特に早期診断・治療に苦慮する疾患です。2016年のがん死亡数統計では、膵癌は男性で3位、女性で5位と近年上位に挙がってきています。消化器内科が膵癌を克服するためには、早期診断を行って手術や化学療法などの治療介入を少しでも早くスタートすることが重要と考えます。しかし膵癌は腹痛や背部痛、黄疸といった臨床症状が出現している時には進行した病期であることがほとんどです。そこで膵癌のリスクファクターのある方々に精密検査を行うことで早期膵癌を診断することが重要となります。特に近年注目されているのが膵管内乳頭粘液性腫瘍 (Intraductal papillary mucinous neoplasm: 以下 IPMN) です。2006年に膵嚢胞の膵癌発生率は年率0.95%、225倍のリスクであると本邦から報告がされました。特に IPMN の中でも主膵管に拡張の見られない分枝膵管型 (Branch Duct IPMN: 以下 BD-IPMN) では、嚢胞と別部位に出現する膵癌 (併存膵癌) が問題となっており、その累積発生率は5年で2.2~3.0%、10年で8.7~8.8%と高率であることが報告されています。

また以前より糖尿病 (以下 DM) は膵癌のリスクであることが知られています。当科で2018年1月から診断した35例の膵癌の方々では DM の既往歴が34%、DM 増悪で診断された膵癌は29%であり DM 診療での膵癌スクリーニングの重要性が伺えます。

当科では膵癌のスクリーニング方法の1つとして MRCP を重要視しています。MRCP は静注造影剤を使用せず、X線被爆

も無く主膵管およびのう胞状拡張部の経時的な変化を捉えることが容易であり、かつ同時に撮像する拡散強調画像で炎症と腫瘍性病変を同定することが可能です。特に藤が丘病院で撮像された MRCP は診療放射線技師と放射線科医師の熱意で1.5Tとは思えないほど綺麗な写真が撮像されており、他の施設よりも診断精度が高いと考えています。

当科では半年毎に MRCP を施行して2年以上経過観察を行った BD-IPMN 82 症例の方々の中で4例 (4.9%) の併存膵癌症例を診断し根治手術を行うことができました。

今後も継続して膵嚢胞の方々の膵癌スクリーニングを MRCP で行っていくことだけでなく、糖尿病専門医の先生方とも連携を強化して DM 新規発症者と DM 増悪時に積極的に MRCP での膵癌スクリーニングを行うべく当科へご紹介いただければと思っております。そしてより多くの治療可能な膵癌を診断していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

< BD-IPMN の経過観察中 MRCP で診断した膵上皮内癌 >

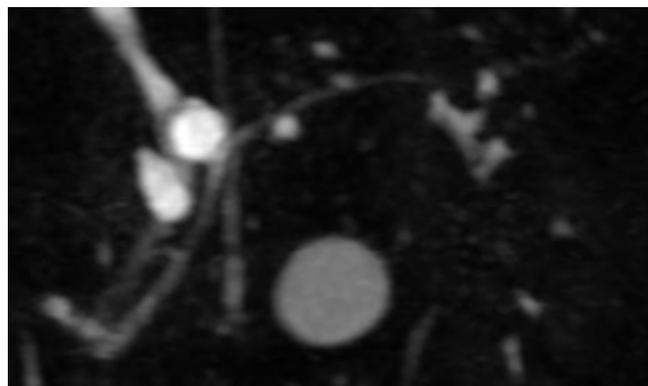


図1. 膵癌診断2年前の MRCP MIP 像

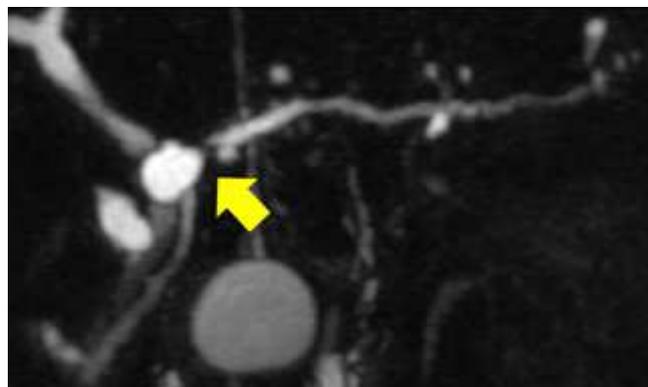


図2. 膵癌診断時の MRCP MIP 像 (矢印: 病変部)



地域に信頼される内視鏡センターを目指して

藤が丘病院 内視鏡センター

昭和大学藤が丘病院の内視鏡センターは、正面玄関から入ってつきあたりの一画にあり、上部・下部内視鏡を中心に、超音波内視鏡、気管支鏡を合わせて年間約 1 万件の検査・治療を実施しています。

内視鏡センターの概要

昭和大学藤が丘病院は、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設を取得しており、内視鏡センターでは、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、専門医 7 名を中心にして、内視鏡診療を行っています。

全 7 部屋の内視鏡室には最新のシステムが設置され、がんの早期診断を可能にする Narrow Band Imaging (NBI) を併用した拡大内視鏡による精度の高い上部・下部内視鏡を全例に実施しています。

検査中に疑わしい病変を発見した場合、従来は組織を採取する生検を行います。NBI 併用拡大内視鏡を用いると生検を行わずに診断することも可能です(写真 1)。

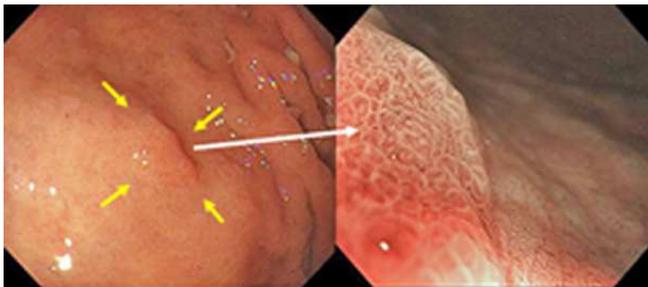


写真 1. 早期胃癌(8mm)NBI併用拡大写真

最近では心筋梗塞、脳梗塞の予防で抗血栓薬を内服されている方も多いため、生検頻度の減少は患者さんの負担軽減に役立ちます。

当センターでは、できるだけ苦痛なく内視鏡検査を受けていただくために、鎮静剤の使用を積極的に行っております。鎮静剤の使用で検査が楽になるだけでなく、検査精度の向上も期待できます。

早急に検査が必要な患者さんには、なるべく早く検査を受けていただけるように、食事をせずに受診をされた場合、できる限りその日に内視鏡検査を行っています。

がんの早期診断と内視鏡治療

がんは早期発見が重要で、早期に診断できれば、身体に負担の少ない内視鏡治療が可能です。横浜市では平成 28 年度から内視鏡による胃がん検診が本格的に実施されております。

横浜市医師会の先生方は、全国に先駆けて内視鏡による胃がん検診を実施しており、現在までに多数の早期胃がんが診断されています。

当センターでは、そのような近隣の先生方から御紹介いただいた患者さんに対して、前述の内視鏡システムで正確な

診断を行った上で、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行っております。(写真 2)



写真 2. 早期胃癌 ESD を行う上部グループ

2017 年度は全消化管がん合計で 202 例(食道 21 例、胃 80 例、十二指腸 9 例、大腸 92 例)の ESD を実施しました。そのうち胃と大腸の ESD の治療成績は、藤が丘病院ホームページに内視鏡センターのクオリティインディケーターとして提示しています。

最近では、近隣の施設で治療が難しいと判断されたバレット食道がん、未分化型胃がん、十二指腸がんなどの患者さんも御紹介いただいております。

今後も近隣の先生方との連携を強化し、横浜市近郊にお住まいの患者さんが、都内など遠方の病院を受診することなく、安心して精度の高い内視鏡診療を受けていただけるような、地域に信頼される内視鏡センターを目指してまいります。

(内視鏡センター長 山本 頼正)

地域の特性に合った乳癌治療の提供

～ shared decision making ～

藤が丘病院プレストセンター

昭和大学藤が丘病院プレストセンターは 3 年目を迎えました。お陰様で、多くの方からのご支援により来院される患者数や手術件数が増加しており、より質の高い癌治療が提供できるように努めなければいけないと感じています。

プレストセンターのクオリティインディケーター

安全な医療を提供するためには医療の質を客観的に評価する必要があります。プレストセンターにおいてもクオリティインディケーターを測定・公表しています。2017 年のアウトカムに関しては、乳房部分切除術の平均入院期間は 4.1 日、乳房切除術では 8.3 日で、全国平均よりも大幅に短い入院期間でした。また出血等による再手術率は 1 件(0.53%)でした。

治療の特徴

合併症をゼロにするためには、行っている医療のプロセスを見直す必要があります。藤が丘病院に来院する患者さんは高齢者が多いという特性があります。乳癌診療ガイドラインでは、「手術に耐えうる健康状態であれば、高齢者の乳癌に対しても手術療法が標準治療である」とされていますが、80 歳を超える超高齢者の乳癌の方も多く、ガイドライン通りの

治療を行うことができないことがあります。2017年は超高齢者の手術を22件行いましたが、健康状態によっては自然の生命予後を考慮し、癌の完治を目指すのではなく、合併症を避けて、今後5年・10年先を元気でいられる治療が最善である場合があります。そのためには、私たち医療提供者は、益と害の両面を患者・家族と話し合い、治療方法を決定するプロセス(shared decision making)を大切にすることが必要だと考えています。

今後も継続的に質の高い乳癌治療を提供すべく、shared decision makingのプロセスを大切にして癌治療を提供したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



第28回 藤が丘地域連携フォーラム

10月11日(木)、藤が丘病院にて第28回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。平成23年9月から始まった藤が丘地域連携フォーラムも今回で28回目を迎え、地域医療機関の先生方や関係者の皆様62施設91名、昭和大学藤が丘病院関係者105名の合計196名の方々にご参加いただきました。当日は下記の2演題の講演が行われ、活発な質疑がなされました。



＝第28回藤が丘地域連携フォーラム講演会＝

- 1) 肝胆膵外科手術の最前線
昭和大学藤が丘病院 消化器・一般外科
田中 邦哉
- 2) 骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術JLSC
(Laparoscopic Sacral Colpopexy)
昭和大学藤が丘病院 産婦人科
森岡 幹

講演会後の懇親会では意見交換が賑やかに行われました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。なお、次回の地域連携フォーラムは、平成31年1月10日(木)に放射線治療科、小児科の講演を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。

(藤が丘病院医療経営戦略課 馬杉 朗子)

地域合同防災訓練

10月21日(日)、青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署、青葉区4師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、神奈川県柔道整復師会)、アマチュア無線非常通信協力会と合同で昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院地域合同防災訓練を実施しました。

昨年度策定したBCP(事業継続計画)に基づいて、手術室や透析センター、カテーテル室、内視鏡センターなどで実施中の



手術や施術を安全に中止し、災害により搬送される患者の受入れ体制を整える訓練を行いました。また、崩壊の恐れのある建物から別棟へ入院患者を避難させる訓練も行いました。地域住民の方々へは災害時の当院の果たす役割を知っていただくために、トリアージ訓練を見学していただいたり、青葉消防署による心肺蘇生・AED操作訓練、柔道整復師会による骨折の応急処置法の講習会を受講していただいたりしました。さらに、青葉区とはMCA無線による患者搬送調整訓練を実施しました。今後は訓練を通じて浮かんだ様々な課題を院内で検討し、「災害拠点病院」としての使命を果たすための機能強化と地域連携の強化を図ってまいります。

(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

医療安全の日講演会

藤が丘病院は、平成14年に重大な医療事故を経験しました。この事故を忘れず全職員が医療安全に取り組むため、事故のあった10月28日を「医療安全の日」と制定し、毎年ご遺族の方々にもご参加いただき、『医療安全の日講演会』を開催しています。今年度は10月24日(水)に日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科 教授 小川理郎先生をお招きして「マスキュラリングの状況における災害医療と安全管理」と題してご講演いただきました。大勢の人が集まる状況下において発生する事故や災害時における二次災害の防止等、実際に経験した内容のご講演をいただきました。災害はいつ起きるかわかりません。引き続き全職員とともに災害医療、医療安全に取り組んでいきたいと思っております。

(藤が丘病院OTリハビリマネジメント課 大山 和)

平成30年度第14回「医療安全の日」講演会
昭和大学藤が丘病院

マスキュラリングの状況における災害医療と安全管理

日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科 教授
小川 理郎 先生

日時：平成30年10月24日(水) 9時開演
18時00～19時30分

第2回以降のDVD上映スケジュール

第2回	11月13日(火)	第3回	12月7日(金)
第4回	12月17日(月)	第5回	1月31日(木)

第6回講演会：17:30～/C棟講堂 18:00～
中継1会場：17:30～/第4期開会の講演です

全職員必須！途中入室不可！

主催：災害発生時対応委員会

ハッピーハロウィーン

30年10月26日(金)、藤が丘病院こどもセンターでは入院中の子どもたちとご家族に向けて、ハロウィンイベントを開催しました。仮装した小児科医師、看護師、保育士が病室をまわり写真撮影をしました。スタッフの「ハッピーハロウィーン♪」の声に笑顔で返してくれる子どもたち。なかにはおばけを見て、泣きだしてしまう子も…。最後はスタッフ手作りのハロウィン仕様フォトカードと、ささやかなプレゼントを渡しました。かわいい衣装で楽しそうに笑う子どもたちの姿には、私たちスタッフも癒されます。こどもセンターでは、年間を通じて楽しいイベントを企画しています。このようなイベントが入院中の子どもたちとご家族の活力につながればと思っております。

(藤が丘病院こどもセンター 看護師 山野 飛鳥)



方が相談に訪れました。税金は難しくマイナスなイメージを抱きがちですが、近年は確定申告や医療費控除を計算できるアプリや、ネット上で申告・納税ができる e-Tax 制度などにより、処理はとてども便利になりました。何かと忙しい師走、単調な日々を過ごしてしまいがちですが、こういった院内行事をきっかけに普段の生活を見直してみるのもいいですね。

(藤が丘病院管理課 村上 加織)

スキルアップセミナー・アドバンスコース

12月1日(土)、神奈川県足柄上郡にある研修施設「テルモメディカルプラネックス」にて、初期臨床研修医一年次・二年次を対象にしたスキルアップセミナー・アドバンスコースが開催されました。今年4月に開催したスキルアップセミナー・ベーシックコースは内科系手技が中心でしたが、今回は外科系手技を中心にプログラムを組み、実施に現場で使用する医療機器や本格的なシミュレーターなどを用いて実践的な手技講習を行いました。セミナー終了後は、研修管理委員長市川教授より参加者へ修了証を、インストラクターを務めて頂いた先生方へ感謝状がそれぞれ授与されました。



(藤が丘病院管理課 土屋 純子)

「税の相談会」を開催しました

11月13日(火)、藤が丘病院1階談話スペースにて、東京地方税理士会緑支部の方々による「税を考える週間」無料相談会が開催され、18名の患者さんやご家族の



診療統計 2018年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2018年10月	2018年11月	2018年10月	2018年11月
外来患者数	29,801人 (1,146.2人)	27,659人 (1,202.6人)	4,589人 (176.5人)	4,409人 (191.7人)
入院患者数	15,649人 (504.8人)	15,961人 (532.0人)	5,011人 (161.6人)	5,259人 (175.3人)
紹介率	83.0%	83.1%	70.2%	69.0%
逆紹介率	58.2%	61.4%	62.8%	69.3%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
出川 美幸	角田 博子	佐藤 由紀	岩城 馨	長沼 美代子	下田 遥菜
岡部 圭吾	大塚 凌	和田 洋一	(順不同)		